

令和 2 年度 政 務 活 動 費 支 出 整 理 簿

会 派 名 自由民主・市民クラブ

氏 名 久保 百恵

項 目	研修費		
費 目	旅費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	支 出 内 容
1	6 / 25	6,300	地方議員セミナー 旅費（岩手県盛岡市）（日程、場所等は調査視察等届出書等に記載）
1 - 1	0 / 0	0	JR乗車券・特急券 八戸⇄盛岡 6,300円
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小 計		6,300	備 考
合 計		6,300	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

第3号様式（第6条、第8条関係）

令和2年6月2日

会派名 自由民主・市民クラブ

代表者名 坂本美洋様

氏 名 森 園 秀 一



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

1 旅行者 森園 秀一 議員

2 期 間 令和2年6月25日（木）

3 場 所 岩手県盛岡市

4 目的及び内容 セミナー
「地方議員政策づくりのポイント in 盛岡」

5 支出可能額（限度額） 6,680円

【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第4号様式（第6条、第8条関係）

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎				
行	日	行程	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考
き	6/25	本八戸駅発 8:46					
	6/25	盛岡駅着 9:41	早見表				
帰	6/25	盛岡駅発 17:37					
り	6/25	本八戸駅着 18:30					
経路・滞在地 6/25(木) 8:46 本八戸駅発(八戸線) 8:55 八戸駅着 9:05 八戸駅発(はやぶさ14) 9:41 盛岡駅着 セミナー 10:00～17:00 「地方議員政策づくりのポイント in 盛岡」 会場：マリオス18階 「180会議室」 (岩手県盛岡市盛岡駅西通 2-9-1) 17:37 盛岡駅発(はやぶさ31) 18:11 八戸駅着 18:22 八戸駅発(八戸線) 18:30 本八戸駅着			鉄道運賃	6.1k	190	380	本八戸⇄八戸
				96.6k	6,300	6,300	八戸⇄盛岡(新幹線Wきっぷ)
			急 行 料 金	特			
				急			
			特別車両 料 金				
			航空運賃				
			バス運賃				
			宿泊料				
			小 計			6,680	
			合 計 (小計×人数)			6,680	1名

令和2年7月21日

会派名 自由民主・市民クラブ
代表者名 坂本美洋様

氏 名 森 園 秀 一



調査視察等報告書

令和2年6月2日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- | | |
|-------|--------------|
| 1 旅行者 | 森園 秀一 議員 |
| 2 期 間 | 令和2年6月25日（木） |
| 3 場 所 | 岩手県盛岡市 |
| 4 行 程 | J R 八戸駅⇄盛岡駅 |
| 5 支出額 | 6,300円 |
| 6 概 要 | 別紙のとおり |

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	旅費	整理番号	1-1
領 収 書 等 貼 付 欄					

領 収 証

2020年 6月25日

森園秀一様

金6,300円

ただし、乗車券類代
（クレジットカードによるご利用分）として、上記金額を受領しました。

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

印 紙 税 申 告 納
付 に つ き 渋谷
税 務 署 承 認 済

東日本旅客鉄道株式会社
八戸801 No.000004

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

研修報告書

①日時 令和2年6月25日（木）10:00～17:00

②場所

盛岡市盛岡駅西通2丁目9番1号マリオス 182

③参加議員 自由民主・市民クラブ 森園秀一

④研修内容 地方議員セミナー

[地方議員政策づくりのポイント in 盛岡]

⑤主催 地方議会総合研究所

⑥講師 中央大学名誉教授 佐々木信夫様

<セミナー内容>

地方議員政策づくりのポイント

第1部・地方分権を考える

1. 日本の分権改革のポイント

1-1 国と地方の関係～どんな中央地方関係を目指すのか

①集権・分離型（超集権国家）

②分権・分離型（英米系国家）

③集権・融合型（大陸系国家）

④分権・融合型（北欧系国家）

1-2 日本の国と地方の関係～大きな地方自治の流れ

1-3 日本の中央地方関係の問題点

1-4 日本の地方分権改革は？

1-5 自治本旨＝団体自治と住民自治

1-6 自治体の権能と住民の権利

1-7 2元代表制－自治体のしくみ

- 1- 8 諸外国の地方制度～アメリカ～
- 1- 9 同上 イギリス
- 1-10 同上 カナダ
- 1-11 地方自治の車の両輪
- 1-12 執行機関と補助機関
- 1-13 地方議会のしくみ
- 1-14 転換点に立つ自治体経営～従来手法からの転換
- 1-15 政策の概念
- 1-16 政策の過程
- 1-17 政策の立案
- 1-18 政策の形成
- 1-19 政策の目標
 - ①限界値目標
 - ②充足値目標
 - ③期待値目標
- 1-20 政策の手段
 - ①権力的手段
 - ②経済的誘因の提供
 - ③情報の提供
 - ④物理的制御
 - ⑤直接サービス供給

第2部・地方創生を考える

- 1、地方創生一どのような政策をつくるか
- 2、これまでの地方創生を検証する
- 3、いま、地域で何が起きているかー空き家、耕作地放棄
- 4、各地の実例をみる～これから何を学ぶ？

所見

日本を取り巻く大きな環境変化の一つが人口減少で今後の大きな課題でもあります。

我が国の総人口は、2004 年をピークに、今後 100 年間で 100 年前（明治時代後半）の水準に戻っていきませんが、この変化は、千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少です。

こういった大きな変化がある中で、今回の佐々木講師の本旨は、これまでの旧態依然とした 47 都道府県体制について「廃県置州の改革」こそが必要ではないかということでした。

これは、講師であります佐々木先生が東京都庁の職員であった頃からの思いだったようです。

現在の都道府県庁の仕事をするために集められた職員は、それらの守備範囲に対して「過剰能力集団」であり、その力を十分に生かす腕の振るいどころが狭く浅いと思われるそうです。

馬、船、徒歩の時代からの 47 の区割りも「広域自治体」とは名ばかりで、内実は「狭域自治体」ではないかと疑問に思い、政令市、中核市など府県自治体の拡大により、仲卸・中二階自治体たる県の存在自体を怪しくしているのではないかと考えられているそうです。

そういった考えの中で、広域自治体が名実ともにその実力を発揮できるよう、より分権化、広域化で地方自治を変えられないかという問題意識を持ち続けておられました。

明治期の人口増時代の「廃藩置県」に対して、これからの人口減時代は「廃県置州」の大改革が不可欠だという意見を話されていました。

目先の景気対策ばかり議論し、中長期の視点で国家の制度設計をしない政治がおかしいという意見には、心が動かされました。

今回のコロナ感染症により、保健所を持つ、政令市や中核市の役割が益々大きく重要になってきました。

これまでのように人が増え、所得、税収も増える、拡大続きの右肩上がり社会からどのように転換していくのか。

経済、成長という 20 世紀の拡大期のキーワード、成功体験をいつまでも持ち出し、その延長戦でものを見続けていくことは、これからの日本の在り方を考えますと非常に厳しいと思います。

これからは全く違う時代の始まりだという認識から、「新しい日本づくり」「地域づくり」を考えていく必要があると思いました。



中央大学名誉教授
 (社)日本国づくり研究所理事長
 事業構想大学院大学客員教授
 法学博士 佐々木 信夫

個人事務所 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町二丁目二〇〇一
 電話 (〇三) 三二五三二四〇五〇
 E-mail: shino@shino.co.jp
 自宅 〒192-0393 東京都八王子市東中野七四二一
 電話 〇三-〇〇〇〇〇〇〇
 名誉教授室 〒192-0393 東京都八王子市東中野七四二一
 電話 〇三-〇〇〇〇〇〇〇